

## 陶器様胆嚢

埼玉医科大学総合医療センター肝胆膵外科教授

別宮好文

(聞き手 山内俊一)

---

陶器様胆嚢についてご教示ください。

エコーでは胆嚢壁の評価ができないので、ほかのモダリティで見て問題ない場合に、毎年CTやMRIで検査していくべきか、外科的治療を進めるべきか、ご教示ください。

<千葉県開業医>

---

**山内** 別宮先生、陶器様胆嚢という名前のイメージからすると、陶器のような非常にきれいな胆嚢が出てくると見てよいのでしょうか。

**別宮** そうですね。非常にきれいに石灰化している胆嚢と考えてよいかと思えます。

**山内** そうしますと、非常にインパクトが強いものですから、昔から例えば手術とか剖検などでもかなり知られていたものなのでしょうか。

**別宮** 最初の報告は1931年にされていて、胆嚢摘出標本で胆嚢がんの合併が多いと、そのころから報告されています。

**山内** 胆嚢がんとの合併が多いのですか。

**別宮** 1990年までの報告を見ますと、胆嚢がんが高率に合併すると報告されています。少ない報告でも12%、多い報告ですと22%の合併があると報告されています。

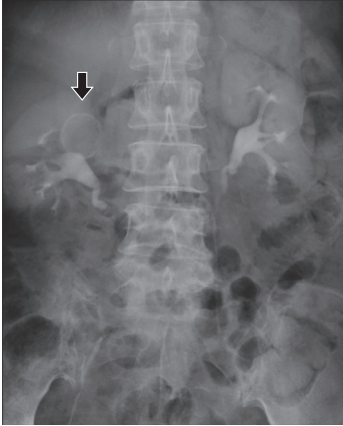
**山内** 近年はそうでもないのですか。

**別宮** 2000年以降の報告を見ますと、例えばアメリカのボストンの報告の場合、2万5,000例ぐらいの胆嚢摘出標本のうち、0.58%に胆嚢がんが、0.17%に石灰化した陶器様胆嚢が認められた。そして陶器様胆嚢の44例、0.12%のうち、2例に胆嚢がんが合併している。全体の5%です。ですから、この報告で見ると、ある程度の頻度があるのではないかと報告がされています。

**山内** ただ、非専門医にとっては、

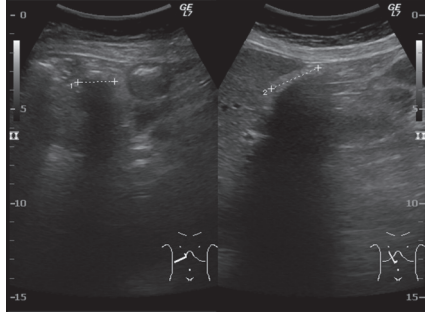
## 写真

### 腹部単純写真



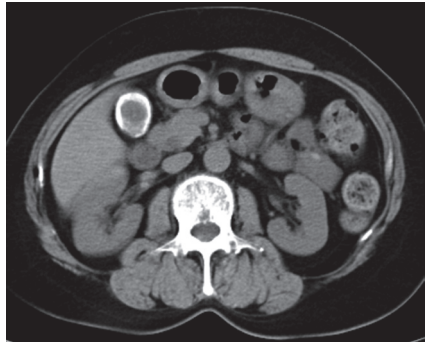
↓：右上腹部に球形の石灰化像

### 陶器様胆嚢の超音波像



壁の石灰化により胆嚢内が無エコー帯となっている

### 陶器様胆嚢の単純CT像



ほぼ全周性の胆嚢壁の石灰化が認められる

そう頻繁にお目にかかるものではないということもいえますね。

**別宮** そうですね。エコーを撮ったら偶然そういう石灰化が映ったり、あるいは腹部単純レントゲンで石灰化が映ったり。けっこう目立ちますから。その後、どのように対処すべきかを一応頭に入れておいていただければと思うのですが、全体が石灰化しているような陶器様胆嚢は、胆嚢がんの合併はほとんどないと考えていいと思われま

**山内** 基本的には超音波でもわかるのでしょうか。

**別宮** 全体が石灰化していることはわかると思います。ただ、超音波を当たった部分の石灰化しかわからないので、

その裏側に石灰化があるかないかは超音波だけでははっきりと断定することはできません。違うモダリティ、CTやMRIで石灰化が全体に起こっていることを確認するのが大事だと思います。

**山内** カルシウムの沈着は胆嚢の壁だけなのですね。

**別宮** そうです。ただ、胆嚢内に結石がある症例もあります。石がなくて、胆嚢の壁だけが石灰化している症例もあります。

**山内** そうしますと、どちらかというとなりMRIといったものが活躍すると考えてよいですね。

**別宮** そうですね。超音波で偶然発見されたり、腹部単純レントゲンで見つかったりした場合には、CTなりMRIをして、全体が石灰化していることを確認したほうがよいかと思います。

**山内** どうしてこういったものができるのかは非常に興味がありますが。

**別宮** 摘出標本をたくさん調べた報告を見ると、ほとんどの例で胆嚢頸部または胆嚢管の閉塞があります。最終的な陶器様胆嚢の顕微鏡所見としては、壁全体が石灰化しているので、粘膜が残っていない状態です。ですから、何らかの閉塞機転があって、炎症が起こって、石灰化が起こって、最終的に陶器様胆嚢になると考えていいと思います。

**山内** 内部はもう機能していないのですか。

**別宮** そうですね。胆嚢管が閉塞しているのですから、胆汁の交通はないと考えていいと思います。

**山内** 何となく慢性の胆嚢炎なり何なりの結果のような気もしますが、そうでもないのですね。

**別宮** おそらく急性の機転が一番最

初にあって、それが繰り返されて起こると考えているのですが、その途中の経過を詳細に追った報告はありません。想像でしかないのですが、胆嚢管または胆嚢頸部の閉塞が起こっていることを考えると、そういう機転が繰り返して起こって石灰化が徐々に進んでいくと考えていいと思います。

**山内** これだけ画像診断が、特に健康診断などでも使われるような時代になりましたが、頻度的にあまり高くないので、毎年フォローアップできる症例は、そこまでないという状況でしょうか。

**別宮** そうですね。1990年代までは胆嚢がんの合併が多いことから、超音波なり単純CTで検診時に見つかった場合には手術に回っていたと思います。その一つの理由は、1990年ごろを境に開腹の胆摘から腹腔鏡の胆嚢摘出術が世界的に適応されるようになって、そういう石灰化した胆嚢が見つかった場合には外科医のもとに紹介され、胆嚢摘出術がわりあい気軽に行われるようになったのが大きな原因ではないかと思っています。

**山内** 当時ですと、疑わしきはみんな取るという動きが若干ありましたし、がん化率もけっこうあるのではないかと見られたこともあるのですね。

**別宮** あります。

**山内** 症状は出るのでしょうか。

**別宮** 多くの場合、症状はありません

ん。先ほど申しましたように、胆嚢管の閉塞がありますので、そのときに何らかの症状はおそらくあると思うのです。それが繰り返して起こっていて、何らかの違和感とか、そういうものはあると思いますが、通常の病歴聴取でそういう症状が記載されているものはあまりないと考えていいと思います。

**山内** 実際に超音波でこういうものが出てくると非常にびっくりすると思うのですが、意外に患者さんには症状も何も出ないという感じで、偶発的に検出されることが多いのですか。

**別宮** 多いと思います。

**山内** この質問は画像診断のものなので、もう少しMRIあるいはCT所見と予後ないし処置といったあたりの方針、このあたりをお聞きしたいのですが。

**別宮** まず胆嚢の壁全体がすべて石灰化しているという、いわゆる陶器様胆嚢の症例においては、がんの合併はほとんどないと考えていいと思います。ですので、幾つかの報告はあるのですが、そういうもので手術をしたものと経過観察したもので比べてみると、手術したものががんの合併例はないし、平均3.5年間フォローアップした症例でも、あとからがんが出てきたケースはありません。最低3年ぐらいはそのまま放置しても構わないと考えられると思います。

それは条件としては、CTなりMRI

などで壁全体が石灰化していることが確認されている症例で、無症状であることです。その場合には3～5年に1回、CTなりMRIなどを撮って、胆嚢の周辺の状態とか、あるいは胆嚢内に腫瘍性病変がないかどうかを確認すればいいと考えられます。

**山内** そうしますと、フォローアップするにしても、比較的間遠でもいい感じですか。

**別宮** そうですね。そんなに毎年やる必要はありませんし、総合的に判断しますと、3～5年に1回ぐらい、そういう精密検査を行えばいいと考えられます。

**山内** 全体が大きくなることは考えにくい病態なのですが、腫瘍ではないにしても、画像上、内側の壁が不整であるとか、そういった所見が出てくることはないのでしょうか。

**別宮** 全体が石灰化しているものはないと考えていいと思います。ただ、部分的な石灰化があって、石灰化していない壁の部分が残っている場合には、そこにはおそらく粘膜があると思いますので、何らかの悪性の変化が起こりうる可能性はあるかと思います。

**山内** そのあたりが摘出するかしないかの目安の一つと見てよいですね。

**別宮** そうですね。もう一つは、有症状かどうか、肝機能障害が血液検査で出るかどうか、その2つをチェックしていただき、どちらもない場合には、

かなり間遠なフォローアップでも心配ないと考えられます。

**山内** 症状は痛みが中心と見てよいのでしょうか。

**別宮** そうですね。腹痛であるとか、胆石の発作のような痙痛であるとか、そのような症状があるとすれば、摘出する適応になるかと思しますので、専門医に相談していただければと思います。

**山内** 機能がないですから、血中のビリルビンなども上がってこないと見てよいですか。

**別宮** そうですね。

**山内** そういったことの確認をしながら、画像診断で方針を決めていくことになるのですね。

**別宮** そうですね。

**山内** 手術になるときは、胆嚢摘出は腹腔鏡的なもので行われるわけだし

ょうか。

**別宮** 腹腔鏡でできます。ちょっと専門的になるのですが、腹腔鏡で手術するときには胆嚢を持ち上げないといけないのですが、壁が石灰化していると、うまくつかめない場合があります。その辺は少し工夫が必要かと思いますが、ほとんどの場合は腹腔鏡で手術できると思います。

**山内** 胆嚢というと胆石をすぐイメージします。あれもカルシウムだと思いますが、関連性は今のところはっきりしていないのでしょうか。

**別宮** 陶器様胆嚢の胆石合併率は比較的高いといわれています。

**山内** そうしますと、何か関係があるかもしれない。

**別宮** かもしれないですね。

**山内** どうもありがとうございます。